

# 改訂の序

本書初版本の序文は2006年1月に執筆している。今回の改訂まで早くも5年が経過したことになる。シリーズの監修者である土屋一洋先生の「1病変あたり見開き2ページに集約する」というコンセプトに賛同し、腹部・骨盤部領域の編集を担当するとともに自らも執筆を担当した。多数の精鋭の著者による執筆は内容がコンパクトにまとまっており、出版社である羊土社の担当の方々の表紙のアイデアや内容のレイアウトなども良くできていたため、好評を博した。関係者一同に感謝したい。

今回、改訂を行うにあたり、病変の項目を一部変更し最終的には前回よりも10項目増やした。大きく変えたところは、前回含まれていなかった男性骨盤領域を新たに加えたことである。また、改訂にあたり、図の説明文表示法や造影効果の表現法などを見直し、統一した。読者がどの項目を読んでも1冊の本として違和感のないようにしたいということが表示法統一の目的であり、各著者にはご了承を頂きながら施行した。そういった点では、1冊の本として初版よりさらに統一のとれた本に仕上がったと思っている。

種々の改訂を行い、画像診断の進歩により新たに診断上スタンダードになってきた検査法なども取り入れたが、基本的なコンセプトは改訂版でも同様である。本書のねらいは、前述したように見開き2ページの中に疾患の特徴的な画像を取り入れること、重要な画像所見を強調すること、鑑別診断を挙げるとともに画像も掲載すること、診断に有用な画像検査法の重み付けをすることなどの画像診断関連項目のほかに、疾患の概略についても記載し、2ページで類縁疾患も含めた概略の把握ができることにある。したがって、参考文献も最小限にとどめてある。疾患の詳細な把握は成書や種々の文献に譲る。

本書は、初学者である前期臨床研修医や専門医になる前の放射線科医（画像診断医）を主たる対象としているが、放射線科以外の医師や放射線科（画像診断）専門医で腹部・骨盤部を専門としない医師でも、忙しい診療や読影の合間に手にとって短時間見るだけで役に立つ内容である。それに加え、腹部・骨盤部を専門とする医師が画像所見や疾患の概略などを本書で確認することにも使用できる。

近年の画像診断検査、特にMRI、CT検査の増加をみていると、画像診断医のマンパワーの増加が急務であるとともに、正確で臨床に役立つレポートを短時間で作成する能力を養成する必要がある。そのためにも傍らに置いた本書が役に立つことを期待している。

2011年2月

桑鶴良平